



## 図書について

校長 福田 栄喜

私が好きな本に「精霊の守り人」と「大泥棒ホツェンプロッツ」があります。「精霊の守り人」は、登場人物が魅力的であり、独特な世界観に引き込まれました。また、「大泥棒ホツェンプロッツ」は、先の展開に目が離せなくなり好きになった本です。どちらも児童書ですが、大人でも十分に楽しめる本です。

以前参加した講習会で、講師の先生が「家庭で本を購入するとき、戦争や貧困、差別といった課題を扱った本は、あまり選ばれません。しかし、そういった本は子どもたちの心を揺さぶる良質の本であることが多いです。」と、おっしゃっていました。私自身も、戦争や貧困、差別などのテーマの本を娘や息子に買い与えた記憶はありません。しかし、そういったテーマの本こそ、クラスで読み、感想をお互いに述べ合うことで、自分の考えを深めたり、新しい知識を得たりできるのではないかと思います。

本校では、購入する本をどのように選んでいるかということ、学習の手助けとなるような本、教科書に載っている本などを中心に選んでいます。もちろん、子どもたちに人気の本も選んでいます。その他にも、戦争や貧困、差別をテーマとした本も選んでいます。図書室には、様々なジャンルの本があります。もちろん自分の好きな本を読むことはとても楽しいことであり、読書習慣を付ける第一歩になります。子どもたちには、是非、一つのジャンルにこだわらず、いろいろなジャンルの本を手に取り、新しい知識を吸収したり、自分以外の視点でものごとを考えたりすることで、視野を広げてほしいと思います。

今月は、12日から14日まで小学部5・6年生の児童と中学部の生徒全員が修学旅行に行きます。子どもたちには、修学旅行中に以下の三つのことを大事にしてほしいと伝えました。

- ① **挨拶をする**：出会う皆さんにしっかり挨拶が届くようにする。気持ちがよい挨拶や返事を出会う皆さんにする。
- ② **自分の言葉や行動に責任をもつ**：誰かのせいにせず、自分の責任を自覚する。もし、友達や周りの人などに迷惑をかけた時には謝る。
- ③ **みんなのために行動する**：みんなが楽しく学習できるように、行動する。

引き続き、子どもたちには、校内外で気持ちのよい挨拶や返事ができるように指導していきます。保護者の皆様には、本校の教育活動にご協力ご支援をお願いいたします。